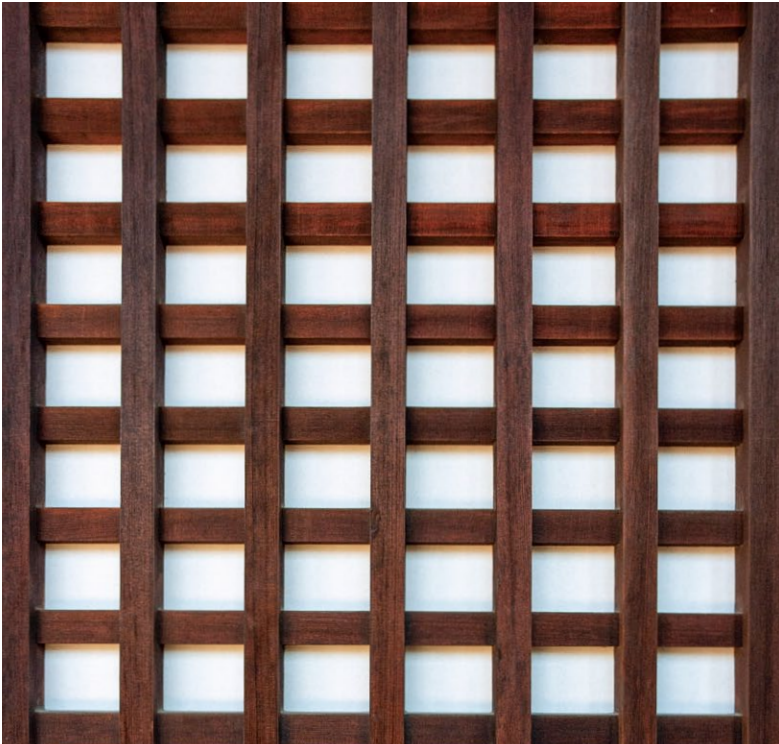


MAKOTO159



親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要記念

全国真宗青年の集い本山大会報告

2023年4月15日開催



全国真宗青年の集い本山大会
実行委員長（中央委員長）

安達 裕仁

「全 国真宗青年の集い本山大会」は「いつもすぐそばに」をテーマに開催しました。これは仏教が特別なものではなく身近にあることを知ってもらいたいこと、または考えてもらいたいという思いを込めて本大会のテーマとしました。私自身、大会の企画を立ち上げたときよりも仏教が身近な存在だと思えるようになりました。本大会を経て仏教を身近な存在と思ってもらえたら嬉しく思います。

大会ではブースを7つに分けてさまざまな体験をしてもらうことにしました。ブースを分けることについての不安や心配が少しあり、全部のブースの様子を見させてもらいましたが楽しそうにしている様子や講師の方の話に集中されている様子を見ることができ、非常に嬉しく思いました。

最後に参加していただいた方をはじめ、講師の方々、スタッフ等多くの方の協力があり無事に大会を終えることができました。本当にありがとうございました！次回の大会でもお会いできることを願っております。

いつもすぐそばに。

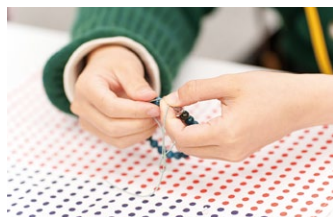


全国真宗青年の集い 本山大会
実行副委員長（中央副委員長）

青木 早希

「全 国真宗青年の集い 本山大会」にご参加、ご協力してくださった皆さんありがとうございました。私はこの集いに参加して、企画段階からどうすれば仏教や真宗の教えを、普段なじみがない人にも身近に感じてもらえるのか、ということを考えていました。私自身も仏教系の大学に入学したことがきっかけで、仏教を身近に感じるようになったのですが、今回の集いでその問いに対するヒントを得ることができたと思っています。

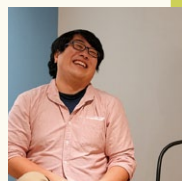
「いつもすぐそばに」をテーマに7つのブースを企画し、私は小国士朗さんのブースを担当させてもらいました。小国さんの講演では企画を考える時には、原風景（自分が実際に見た、触れたりした時に本気で心が動いた風景）を大切にするというお話がありました。私の仏教の原風景は、一言で言えば、私1人その場にいる一人ひとり”が受け入れられる場所”です。これからもこの原風景を大切にして、いろんな視点から仏教や真宗について考えて、伝えることができたいと思います。





大団 縁

縁
によって集い、
語る



画家 山下 清さんの

「自分がいい所へ行こう行こうと思うと、少しもいい所へ行かれない。
いい所へ行こうとしなければ、しぜんにいい所へぶつかる。いい所へ
行こうとするから、いい所へぶつからないんだろう」(裸の大将放浪記)

という文章を読んで感じること。



時代は変わり、オンライン上で人と会話することが増えてきましたが、今回は中央委員と指導講師と直接顔を合わせての対談です。生まれたところも育った場所もいま生きてる環境も異なる人間が、縁によって集い、語り合っていました。

「いい所」ってなんだろう？

要は自分の心の持ちようなのかなと思います。自然に生きているときにハッと、「これいいじゃん」と気づく所なのかなって思いました。

私は、目標を持って高みを目指そうとする姿勢はいいなと思うんですが、欲をもって「いい所」を目指すのには疑問を感じました。深く考えていないときのほうが、良い縁と巡り合えるということなのかなあって。

「高みを目指すこと」と、欲はどう違うと思う？

「ずるさ」がない気がします。運よくいい巡り合いができたというか。宝くじ当てよう！とかそういう「いい」じゃなくて。例えば気の合う友達と巡り合うのって運だと思うけれど、下心のない「縁」みたいな。私は自分がその縁に恵まれてきたのもあって信じた



気持ちがあるので、そういう面では山下清さんの言葉を肯定したいです。

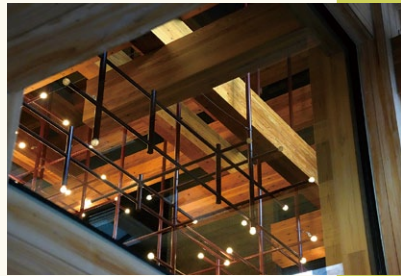
人にあげたら別の良いこととして返ってくるというのは、下心のない感じがな？

募金とかですかね？

募金も少し悪く言えば偽善と捉えられるかもしれない。必ず支援にはなる

ので、その面は確実に良いところなんです、募金に限らず慈善活動をしている自分に浸るとか、よく見せたいという下心もあるかも。

要は全部「欲」ですよ、ね、動く理由って。良い悪いに限らず、欲しい、お金がほしい、この人にプレゼントしてあげたいっていうの



もある意味欲だし。「悪いこと」だけが欲ではないのかも。

私の妹が、見返りを求めずに人に尽くすのを当たり前にする人で、私としては不思議だと思っていて。それもあ意味いい欲なのかなと。傍から見ていたら、そういうのがまわりまわってその人に返るといいなと思いますけど。

山下清さんの思う「いい所」って何なのでしょう。

山下清さんは昭和初め頃の人ですね。何かしらこの言葉の背景があるんでしょうね。

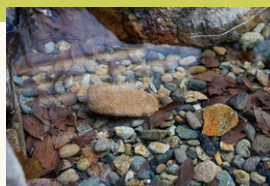
その時代だと一番「いいこと」って戦争に勝つことじゃない？だからそういう側面もあるのかも。

戦争関連でいえば、戦争をふっかける理由って「いい所」を求めていると思うんですよ。石炭の埋蔵量が多いから自分たちのものにしようとか。でも、山下さんが言う「いい所」っていうのは戦争がない状況のこととも思えます。

今の時代に生きている自分って幸せなのかもしれないですね。

普段過ぎすなかで、仏教の教えを思い出すことはありますか？

頑張ってやったことがうまくいかなくてモヤモヤした時に、「ありのままの自分でいい」という言葉を思い出すことがあります。例えば、自分が相手のためにと思ってやったことでも、相手にとっては自分じゃない人の言葉の方が響いていて、虚しくなった



ときとか。でもこの考え方を思い出して、自分が思うことをやれば良いのかなと、姿勢を正すきっかけになります。もう一つ、仏教に携わる前は日常で仏教について考えることは無かったです。が、今は全国大会の「いつもすぐそばに」というテーマが心に響いたこともあり、この言葉がいつもすぐそばにいてくれるように感じます。

虚しいのはわかる。立場の違いで発言力が変わったり、言葉の重みが変わったりすることって、たくさんあるよね。でも自分が結局やりたくてやっただし、という乗り切り方もわかる。一方で、そのおかしさみたいなもの、疑問としては大事だとも思う。

自己防衛として「もう次！」と割り切ってしまうんですけど（笑）、疑問を持つって大切ですね。

僕は今まで法話を聞いてきた中で、「人に迷惑をかけていることに気づきなさいよ」というフレーズが心に残ってます。「人に迷惑をかけるな」というのが一般的だと思っていたんですが、人に迷惑をかけていることは当然で、そのうえで自分はどうな行動をするか、それを考えながら行動していきなさいね、というのが一番衝撃的でした。

私は二つあります。一つは「そのままでもいいんだよ」という法話を聞いたことです。当時、自分自身も仕事で悩んでいた時だったので、響いたというか。その時に法話を聞いて初めて泣きました。もう一つは「いつもそばで見守っているよ」という話です。仕事とか人間関係で悩んでいる時も、亡くなった父がそばで見守ってくれているんだと思うし、自分を強くしてくれるような気がします。



いつもそばにいてくれるのが誰だったとしても、ひとりではないというのは万人の支えになるのではないかと思います。宗教というところある種マイナスイメージを持つ人がいるかもしれないけど、困った時に心が軽くなるきっかけに成りうることを知ってほしいと思います。

このままではこういうところがダメとか、こうなりたいという意欲とか、そういうのもありのままでいいよって肯定されて初めて生まれるものなのかなって聞いていて思いました。

子どもと関わっていてよく思うのが、自我という仏教ではあまり良いイ





メージではないんですが、自我がないと生きていけないですよ。自我はみんな持っているの、どんな自我を築いていくかと考えることが大事かもしれない。と、ありのままという言葉を書いて思いました。

結局みんな仏教のこと思い出して良かった(笑)。

大人になってお寺に行ったことがありますか？

兄が仏前結婚式をしたときに、私の友人が「お寺でも結婚式ができるんだ」と言っていて。それをきっかけに、寺族ではない人が観光以外でお寺に行く機会ってあるのかなと思いました。

僕は2か月に1回。中央委員というのもあって、京都に来たときはお土産買って、地元のお寺に挨拶に行きます。「よう来たな」ついでに飯食って

け」って言うてくれる。子ども会の手伝いにも行きますし、この前は忘年会に行きました。

私はそんなに頻繁にはないですが、七五三や成人式はお寺でやりました。ただ周りにはそういう友人はいないので、珍しい方だと思います。あとはお墓参りですね。お墓参りって一般的な感覚で言うとお寺に行くのではなく、お墓に行くという認識な気がします。私が行っているお寺はお墓もあるので、近くまで来たら手を合わせに寄ることがあります。観光だとその場所が落ち着くとか景色が良いとかそういう理由で訪れると思うので、宗教的な意味合いは持っていないですもんね。



それぞれお寺に行く機会はあるけど理由は違うということだね。

お寺で出会う人って職業も年も生き方も違うし、色々な経験を知れて面白いです。

お寺の在りかたが問われる(笑) 誰にとっても近い場所で開かれていて、いろんな人がいる場になっていることが、お寺の役割として必要なことなんだなと思いました。



ふたつの部屋、
ふたりの暮らし

(2019・フランス)



文 野世阿弥

月 一回、本堂で映画を観る会を開催しています。名前は「クイ
ア映画部」。恋愛というのは異性愛が当たり前、性別は女か男
のどちらかが当たり前……。そんな社会規範に含まれないあり方や、
批判的な視点を持つ作品を観ています。集まるのは五〜十人ほど。

この間は『ふたつの部屋、ふたりの暮らし』を観ました。互いの愛
と生活を「秘密にしなければ生きられない」中で生き抜いてきたレス
ビアン、マドレーヌとニナの物語です。保守的で他人の目線が常にあ
る環境から離れたいけれど、そこには経済的な問題や家族の問題があ
ります。その上、年齢を重ね、介護を必要とするにつれ、自己決定の
機会はどんどん失われていく。そのなかで、ふたりが抵抗していく様
子がサスペンスフルに描かれます。

観終わったら、お茶とおやつでおしゃべりをします。面白いのは、
同じシーンについて話しても「そんなこと思いましなかった!」とい
う声があがることです。さまざまに異なる私たちが語りあい、聞きあ
う時間は、「違うんだなあ」と確認しあう時間でもあります。

人間は生きてきた環境や、当たり前にしてきた価値観によって、まっ
たく違うことを考える。だから違いを尊重しあおう……。それはそう、
わかっているはずだけれど、私たちの日常生活に溢れているのは「同
じだよね」の静かな圧力ばかりではないでしょうか。

マドレーヌとニナをとりまく社会は私たちの現実でもあります。な
ぜふたりの物語は、サスペンスフルにならざるを得なかったのでしょ
うか。ひとりで観るのでもいいけれど、映画から問われ、語りあうこと
は、「同じだよね」への抵抗と連帯の第一歩になるのだと思います。



お坊さんと言えばお寺に行ったら悩み事を聴いてくれるイメージがあります。今回せっかくの機会なので、この本の作製に関わるお坊さん達に日頃から抱える悩みを相談してみました。

悩み相談



Q. オフからオンにすぐに切り替えるのが苦手です。良い心がけ方がありますか？

A. オフからオンに切り替えること。私も苦手です。出来ればいつまでもオフでいたらいのになあと何度思ってきたことが。そしてこれから何度思うことが。何でもみんなこんなに働くのだろう。しかしながら、オンである人に自分のオフが支えられていることも多いし、自分自身がオンであることも大事なので切り替えていくしかないという……。

私は以前勤めていた職場で、自分なりに仕事に臨む段階を決めていて、仕事を如何に自分のペースに引き寄せるかを考えていました。だから、一日の中でも全力でオンな時と、半分ぐらいオンな時、10%ぐらいしかオンじゃない時を自分なりに判断して過ごしていました。特に私は朝が苦手だったので、業務開始時は10%〜半分ぐらいのオンな状態でしたと思います。

果たしてその在り方が良かったのかどうなのかは分かりません。

お釈迦様が修行者に向けて説かれた教で「中道」という言葉があります。

人生の快楽的な面ばかりを追求し続けること、人生の厳しい面ばかりに目を向け続けること、この二つを離れて人生そのものの真相を見極め、悟りに至る道を定めていこうとすることを言います。

悟りとまでは言わないまでも、オフの自分、オンの自分を振り返ってみて、より生きるよるこびが感じられるような在り方を求めていった先に、自分なりの切り替えが来ていくのかもしれないね。



Q. たまに、死について考えてしまうことがあります。どう向き合っていますか？

A. 私の祖父は、89歳で亡くなりました。いつでも、どこでも、トイレの中でも「なんなんだぶ」をとええ、「お浄土にまいらせてもらう」と常々話していました。死の間際には「やっぱり死にとくないのう」と言いました。死に臨む人の心は、生き方同様に千差万別だと思いますが、身近な人の死に会ったときなど、ひとりひっそりと、祖父の死に際の言葉を思い出しています。

私たちは死について話したり聞いたりする機会はとも少なく、暗い話はやめよう」とか「なんでそんなこと考えるの」とか言われてしまうと、ますます話しくなくなってしまうですね。質問者さんと同じようにひとり考えているひとがたくさんいるのではないかなと思います。死について、あれこれ話せる関係をつくることは、自分の



不安を安心して話せる関係になるということでもあります。そんな仲間になりたいですね。

Q.

職場で挨拶をしても無視されるときがあり朝から傷つきます。どのように切り替えたらいいでしょうか

A. 挨拶には、ふたつのパターンがある気がします。ひとつは「キャッチボール型」です。自分が投げたボールを、相手が受け取って返してくれる。ある程度信頼関係が築けているとうまくいきそうです。もうひとつは「水やり型」。自分がしたいからする。そのうち「友好的な人だな」と思ってもらえるかもしれません。難しいのは、自分と相手と、挨拶に求めるものがかみ合わないこともあるということです。時間をかけて互いの人となりを知ることができればいいのですが、職場の人間関係という

のは、あまり深くないことも多いですから、挨拶ひとつであっても、「コミュニケーション」は簡単ではありません。加えて、「無視された」と感じているということは、挨拶以外の部分でも、辛く感じる場面があるのかもしれないと想像します。

私は、質問者さんが「傷つきます」と言い切っていることがとてもいいことだと思いました。ケガをしたら絆創膏を貼りますね。治ったかどうか、何回もながめますね。それと同様に、傷ついた気持ちをないことにせず、「つらかったね」と撫でたりながめたりすることは、気持ちの切り替えを助けてくれます。そうして今度は、自分は挨拶に何を求めているのかな？と考えることもいいし、対等な相手なら話してみたり、上司や言いにくい相手なら、まずは観察したりしてみるのもいいと思います。面倒くさそうに感じるけれど、傷つきをよく見て、その原因を探るプロセスこそが、知らないうちに自分を切り替えてくれるのではないかな

と、私は思います。

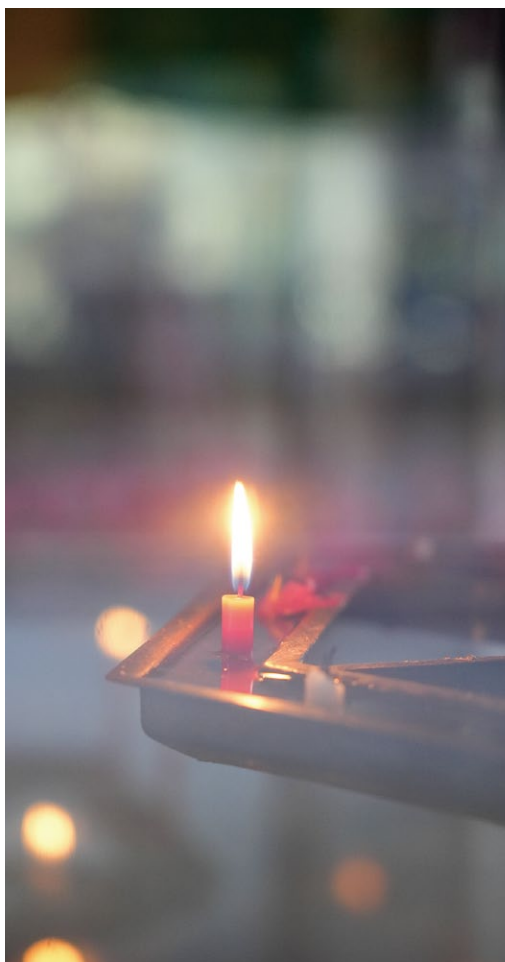
あとがき

お坊さんに相談してみても、悩みが直ぐに解決する訳ではありませんでした。でも、お坊さんなりの立場で答えてもらいました。

そもそも、悩みや問題を早急に解決してくれる人やモノがこの世の中にあるのだろうか。

そんな中でも、困っている人や弱さを抱えた人、葛藤を抱えた人に寄り添っていいこうとしてくれる人がお坊さんなのかなと思いました。





浄土真宗本願寺派

仏教青年連盟機関紙「まこと」No.159

2024(令和6)年3月31日発行

編集/発行: 仏教青年連盟 広報教材委員会

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下る

浄土真宗本願寺派宗務所内

TEL: 075-371-5181 (代表)